

古 都 第 253 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

茨城県古河市長 白戸 伸久



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け、国道企第37号にて提出依頼のあった標記の件について、当市の意見・提案を別添のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

茨城県 古河市

市では街路事業等を推進しようとしているが補助事業の市負担分等の関係で思うように推進できない状況にあり、補助率をアップして市負担分の軽減をお願いしたい。

古河市内には緊急活動にも支障をきたすような狭小な道路や未整備の道路が多く、市民より拡幅整備要望が多く寄せられているが、整備の財源は市単独費を当てているため要望に応える整備ができない状況にあります。これらの整備に充当する補助金制度の確立を要望いたします。

すでに補助事業等で整備された道路・橋梁等で、経年による老朽化により維持修繕が必要になった路線が多く維持修繕は市単独費で行っている状況であり、維持修繕費補助制度の確立を要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

茨城県 古河市

○現状

①旧古河市市街地等には県道を含め狭小道路が多く緊急活動にも支障をきたしている。

②古河市内の道路は国・県道を除くと近隣市町間を連絡する道路の整備がされていない。

○課題

①
沿道には商店、住宅等が建ち並び、道路を拡幅するためには用地及び補償費に多大な費用を要する。
財政的な課題がある。

②
近隣市町との合意形成が必要である。
財政的な課題がある。

①市街地の活性化を図るため「歴史を生かした街づくり」を目指し、安全で快適な交通を確保し、無電柱化等都市景観に配慮しながらバリアフリー化した人優先の道路整備を図る必要があります。

②近隣市町間の地方道路計画で選定された路線を整備し、地域間の連携を深めてゆく必要があります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

茨城県 古河市

○現状	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
地域の活性化	首都圏中央連絡自動車道の早期完成	古河市の近くには高速道路のインターチェンジが無く高速道路利用に不便をきたしている状況であり、現在、圏央道の完成に合わせるべく、アクセス道路として、古河市では茨城県事業である筑西幹線道路及び県道結城野田線バイパス（都市計画道路諸川谷貝線）を合併特例債により古河市事業として実施しています。完成することにより高速道路を利用し短時間で首都及び他の地方都市とアクセスでき、観光及び物流の拠点となり地域の活性化につながることが期待されます。	
渋滞の解消 安全性の確保	国道１２５号の道路改築事業の推進	国道１２５号のバイパスであり、国道４号にアクセスすることにより慢性的な渋滞の緩和になり安全性も確保されます。また、周辺住民の生活の向上にもつながります。	

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

茨城県 古河市

○現状	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
地域の活性化	筑西幹線道路の整備	古河市は茨城県の最西端に位置し、東西に長い地形になっており南北は国道4号、第二4号国道、主要地方道結城野田線等があるが、東西は国道125号、主要地方道つくば古河線と少なく、また、県央地域と直接アクセスする幹線道路がありません。市内の低未利用地に工業団地等の大規模開発を誘致するうえで、また、古河市と県央地域のアクセス道路として必要不可欠な路線であり、完成することにより文化交流・観光及び物流の拠点となり地域の活性化につながることが期待されます。	